

36
July
2016



人間発達学部をもっと知りたい 学生、卒業生がホンネで語る 「人間発達学部」の魅力



Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG

動物の力を借りて

石倉悦加

NUA-Student

デザイン学部

インスタリアルデザインコース 4年

小山楓矢

News/Topics

ニュース&トピックス

人間発達学部

■文化創造セミナー

「身近で楽しい音楽がし」が開催されました

音楽学部

■名古屋芸術大学恒例の

サクソフーンコンサートが行われました

■音楽学部同窓会

第35回 新人演奏会が開催されました

■東キャンパス教育懇談会が開催されました

(音楽学部・人間発達学部合同)

美術学部・デザイン学部

■広告表現論

(株)たきCI 統括部長 清水夏樹氏による

特別講義が行われました

■アートクリエイターコース コレクション展が行われました

■デザイン学部卒業生がミラノサローネサテライトで

2nd Prizeを受賞!!

名古屋芸大グループ校特集

■名古屋音楽学校

コラム NUA

「葉根譚」の教えに学ぶ

人間発達学部教養部会教授 酒井宏明

Master Artist

マスターアーティスト

歌い続けて

音楽学部 教授 澤脇達晴

Information

インフォメーション

■出版

■2016年度オープンキャンパス日程

■2016年度音楽学部演奏会スケジュール(予定)

■アート&デザインセンター

2016年度展覧会スケジュール(予定)



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部 ■名古屋芸術大学保育専門学校
美術研究科 美術学部 ■名古屋芸術大学附属風クリエ幼稚園
デザイン研究科 デザイン学部 ■海子幼稚園 ■たきこ幼児園
人間発達学研究科 人間発達学部 ■名古屋音楽学校 (名古屋芸術大学提携校)

Feature 人間発達学部をもっと知りたい

学生、卒業生がホンネで語る「人間発達学部」の魅力

本学には、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の3つの資格を取得可能な人間発達学部があります。総合芸術大学に、教育・保育のプロフェッショナルを育成する専攻が置かれていることは全国的にもユニークなことです。音楽や美術があふれるキャンパスと専門の講師が教える演習科目、自分の得意科目を身に付ける1年次からのゼミ、実習に加え附属のクリエ幼稚園での講座やワークショップ、ボランティアなど子どもに接する機会が豊富、と特色はいくつも挙げられますが、ホントのところはどんなの？学生はどんなことを感じてるの？ 今回の特集では、人間発達学部卒業生を迎えて、学生たちの“ホンネ”の部分を聞いてみました。



- 司会進行
 石川 浩司 (いしかわ こうじ) さん
 卒業生、クリエ幼稚園教諭
- 4年生
 伊藤 花実 (いとう はなみ) さん
 鵜飼 李衣 (うかい りえ) さん
 酒井 洸実 (さかい こうみ) さん
- 3年生
 谷坂 凌 (たにさか りょう) さん
 日佐 琴美 (ひさ ことみ) さん

どんな仕事に就きたい？

石川：初めに、今、目指している職業を教えてください。
 日佐：保育関係なんですけど、病院の保育関係の仕事です。最初は保育士になりたいと思ってたんですけど、2年のときの保育学で「子どもの保健」という講義があって、先生が病院の保育の話をしてくれたんです。そこで、そういう仕事があるんだと知って、いいなと。
 石川：ああ、なるほど、なるほど。(一同、うなづく)
 谷坂：僕は、小学校の先生です。入学当初は保育士だったんですけど、1年生の後半ぐらいから将来のことを考えて、小学校の先生がいいかなと。
 一同：うん、うん (うなづく)。
 石川：給料。うん、うん (笑)。最初から小学校の免許は取るうとしていたんだ。
 酒井：私も小学校の先生を目指してます。自分が幼稚園のときからずっと先生になりたいと思っていて、そのまま来てます。
 石川：幼稚園の先生じゃないんだね。幼稚園の免許も取るのかな？
 酒井：そうです。保育園も取ります。3免です。

【3免】

保育士資格、幼稚園教諭1種免許状、小学校教諭1種免許状の3つの免許を取得することを、人間発達学部の学生は「3免」としている。保育士と幼稚園、幼稚園と小学校、という組み合わせでもOK。通常、保育士だけ、幼稚園だけ、という学生はいない。「認定こども園法」の改正に伴い創設される「幼保連携型認定こども園」では、保育士資格と幼稚園教諭免許状の両方が必要。



伊藤：私は、幼稚園の先生です。じつはちょっと迷ってるんですけど、一応、今は幼稚園でと考えています。私も保育園のときから先生になりたい、でも保育園と幼稚園とあまり区別が付いてなくて高校、大学と進んで、いろいろ実習にも行って、幼稚園のほうがいいかなと思っています。迷ったりもしているんですけど、幼稚園に決めている感じですね。

石川：どっちも実習に行った？

伊藤：はい。

石川：どっちも実習に行けるのが強みだよな。両方行くと違いがわかる感じがするよ。まあ、園にもよるけどな。

鵜飼：私は保育士志望なんですけど、子どもにかかわる仕事に就きたいと思っています。小学校のときから保育士になりたいと思っていて、でも4年生になって施設実習に行ったんですけど、それですごく迷いました。それまではずっと保育士だったんですけど……。

石川：4年生というともうすぐ試験じゃない。6月になったら願書を送らなきゃいけな

いでしょ（取材は5月下旬に行われました）。

石川：なんで名芸に入ろうと思ったの？

日佐：大学展みたいなのに行き、いろんな大学の話を聞いてみたんですけど、ここの先生が一番熱心に説明してくれるなって気が付いたんです。そこが、いいなと思いました。

石川：誰だか覚えてる？

日佐：星野先生です……。

石川：『ええでなあ（名古屋弁）』っていった？（笑）

谷坂：僕は、先輩が名芸に通っていて、オープンキャンパスも何回も来て、保育関係を目指していたのでそれで決めました。

酒井：私は音楽大学へ行きたいと思っていて、家から通える音楽大学のオープンキャンパスに行きました。もちろん名芸のオープンキャンパスにも行きましたよ。音楽学部に入ろうと思っていましたが、なんていったらいいのか音楽学部だと専門的になってしまって、自分はもう少し小さい子に教えたいと思っていて、そこで人間発達学部があるということに気が付いて、3つ免許を取れるし、自分の好きな音楽もできるなら最高じゃん！ってそれで決めました。

石川：じゃ何か**音楽科の授業（全学共通教育科目）**とか取ってる？

酒井：合唱（もちろん音楽領域です。発声からしっかりやります）を取ってます。

石川：すごい！サークルは？

酒井：**中音部**に入ってます。

石川：いいね。音楽のことをやりつつ、保育のこともやりつつ、小学校の先生かぁ。

伊藤：大学を決めるっていうときに、何ででしょうね？高校の担任の先生に勧められててというのは大きかったかも。あと、家から通えるところ。遠いんですけど……。

石川：どこ？

伊藤：常滑です。

石川：遠いね、通ってるの？

伊藤：はい。1時間半くらい。

石川：常滑なら日本福祉大学とかあるじゃん。

伊藤：あるんですけど、何か違ったんですよ。免許が取れることは良かったんですけど、なぜか考えていなくて……。

石川：じつは、僕は西尾市から1時間半かけて通ってるんだよ。学生時代なら良かったけど、仕事になるとちょっとつらいね。うちから**ケッタ**持って来た（笑）。



鵜飼：私は第一志望じゃなくて、オープンキャンパスも全然来てなかったけど受験したんです。高校のときの先生にすごく名芸はいいよと勧められて、受験のときに初めて来ました。

石川：そうなんだね。入ってみてのギャップってある？

鵜飼：ギャップとかないですね。音楽学部もあるし、ちょっと行けば美術もあるし、授業も音楽学部のとか美術もできるしというので、ほかの大学のことは知らないんですけど、普通の大学と違って良かったのかなと思ってます。

石川：音楽とか美術の授業、取ってる？

鵜飼：造形実技の授業で西キャンパスに行き、日本画を体験してすごく楽しかったです。

【実習】

1年次に幼稚園、2年次に保育園、保育施設、3年次に小学校、または保育園、幼稚園、保育施設、自主的にインターンシップ、4年次に小学校、または、保育所、保育施設、インターンシップと、1年次から毎年、実習がカリキュラムに含まれる。



【星野英五】

(ほしのえいご)
人間発達学部長
教授

《主要な担当科目》

- ゼミナールⅢ
- ゼミナールⅣ
- 子ども環境デザイン
- 音楽実技Ⅰ
- 音楽実技（演奏法・器楽）
- ピアノ実習Ⅰ
- 音楽科指導法
- 表現技術



【全学共通教育科目】

名古屋芸術大学では一般教養科目に相当する部分に「全学共通教育科目」というカリキュラムが置かれ、自分の専修する学部以外の授業を選択することができる。人間発達学部の学生でも音楽領域、美術領域、デザイン領域の授業が履修できる。



【中音部】

東キャンパスの音楽サークル。軽音楽よりロック指向の強い音楽のサークル。サークル内にいくつものバンドがあり、部員をシャッフルして、毎年、新しいバンドが組まれる。オープンキャンパスでも演奏を行う。



【ケッタ】

名古屋弁です。自転車、ケッタマシンのことです。名古屋弁で、ペダルを漕ぐ動作を「蹴ったくる」といったのが語源（たぶん）。



【ピアノ練習室】

9号館と11号館に、人間発達学部のピアノ練習室がある。基本的に学校が開いている時間なら自由に使うことができる。家で練習できなくても学校でできる。



伊藤：ギャップというとかもしれないですけど、**ピアノ練習室**でピアノ

が好きなきに弾けるのがすごく良かったです。今年になってから「**ここ**



ここワークショップ」に行っているんですけど、それが結構充実していて、1年や2年の頃から行ってあげ良かったと思いました。

酒井：ギャップはないですね。オープンキャンパスは、その日に台風が来て3人くらいしか学生が来てなくて1時間で終わっちゃったんです（笑）。

日佐：じつは、私もオープンキャンパス、ほかの大学は行ったんですけど、名芸には来ていなくて、試験のときに初めて学校へ来て、キャンパスがほかのところと違うなと。

石川：何？横に広くないみたい（笑）。

日佐：駅から近いというのはすごく良かったんですけど、道路から急に学校がある（笑）。試験を受けに来たとき、こんなところに本当に大学あるのかなと思いつつ来ました。

石川：少女漫画で見るような広い大学じゃなかった（笑）。芝生でみんなのんびりしているような、ギター弾いてる人がいるような、そんなじゃないもんね。

これまでで楽しかったことは？

石川：大学に入って、これまでで楽しかったことは？

鵜飼：サークルに入っていないし、これまで大学に貢献するようなことをやったことがなくて、**芸祭**もあまりちゃんと見てないんですよ。でも、今年「**春を呼ぶ芸術フェスティバル**」の実行委員をやったんです。それで初めて大学にかかわって、ピアノを弾いているところを見たり先生の発表を見たりして、楽しかったし、ああ芸大なんだと思いました。

石川：あれは芸大っぽいよね。なかなか普通の大学じゃできないよね、きっと。

伊藤：私は実習が楽しかったです。

石川：何の実習が楽しかったの？

伊藤：幼稚園も保育園も楽しかったです。始まる前は心配になるし、気が重かったんですけど、実際に始めてみると、楽しくて楽しくて。

石川：実習はどれくらいの期間あったの？

伊藤：クリエ幼稚園が1週間と、自分の家の近くで3週間。保育所は、2カ所に2週間ずつ。

石川：3年生も、1週間のクリエ実習あった？

日佐、谷坂：はい。

酒井：やっぱり私は、中音のサークルです。大学からギターを始めたんですけど、ギターのうまい先輩がいたり歌のうまい先輩だったりドラムだったりベースだったり、新しいバンドっていう世界に刺激を受けた、自分で曲を作ったりCD作ったりして今しかできないことかなと思って、すごく楽しいです。

石川：大丈夫、大丈夫。これからもできるよ。僕、今もやってるもん。

酒井：ホントですか！ライブとか本当に楽しくて（笑）。
谷坂：僕は、サークルが一番楽しいですね。フットサルに入ってます。

石川：フットサル！ よく**クリエ幼稚園**にボールが飛んでくる（笑）。

谷坂：先輩後輩、関係なくやっていて、西キャンパスで芸杯とかあってそれに向けて練習したりするんですごく楽しいです。

石川：フットサルは、西キャンパスともやったりするの？
谷坂：ちょくちょくですね。西キャンパスのフットサルの活動日と、東キャンパスは日が違うので、東から西に遊びに行ったり、西から遊びに来たりしています。

石川：東と西、別なんだね。
谷坂：違うチームなんですよ。別のフットサルのサークルなんです。

石川：**バス**で行くの？
谷坂：はい、そうです。
石川：バス便利だね。
谷坂：便利です（笑）。

学校生活、1号館でマツタリ!?

石川：お昼は何食べた？
日佐：お昼は、1号館3階のロビーで、家から持ってきたおにぎりを食べました。

谷坂：**食堂**で、マーボー飯を食べました。
酒井：昼は、家から持ってきた焼きそばと、今日初めて、食堂のから揚げおにぎりを食べました。

石川：そんなのあるんだ。初めて知った！
伊藤：今日は家でトーストを食べてきました。
石川：家で？ 3限目からとか？
伊藤：今日は、これだけなんです（笑）。

鵜飼：家でグラタンを食べました。私もこれだけだったんです（笑）。
編集スタッフ一同：ごめんね、お休みのところ、わざわざ来てもらって（笑）。

石川：学校の中で好きな場所ってある？
酒井：私は、時間限定なんですけどご飯を食べ終わったあとの中庭なんです。太陽にあたるとプラス思考になれるということを聞いたことがあって、アイスを食べながらおしゃべりしながら、中庭にいます。

石川：じゃ酒井さんに逢いたかったらお昼に中庭に行けばいいね。
酒井：はい！ 日向ぼっこしています（笑）。

谷坂：一番落ち着くのは**1号館**の7階ですかね。7階のソファで寝そべったり、みんなでしゃべったりするのが好きです。空きコマが出たときなんかです。寝たい人は寝て、しゃべりたい人はしゃべってみたいな。

石川：7階って結構、人いるの？
谷坂：結構多いと思いますよ。たまにソファの空いていないときがある。

日佐：私は3階と4階のロビーですかね。空きコマとかご飯とか、みんなでそこにいることが多いです。
鵜飼：図書館です。いつ行っても唯一静かで、端っこの席が好き。

石川：勉強も図書館でやる？
鵜飼：学校にいるときは図書館でやりますね。用がないときや独りいるときも図書館にすることが多いです。

【こここワークショップ】

「子育て・子育て支援、子ども主体のコミュニティの創造にかかわる研究・実践を通じて本学の幼児教育の維持、向上に努め、かつ社会の保育教育活動に寄与するため」に設置された「子どもコミュニティセンター」が運営する、近隣に住む子どもたち、保護者と一緒に遊び、子育てに関する講座で学習するワークショップ。毎週、水、木曜日、10:00~11:30、11号館1Fにて行われている。



【芸祭】

学祭のことです。「芸大祭」が本当の名称だが、なぜかみな「芸祭」という。



【春を呼ぶ芸術フェスティバル】

人間発達学部を卒業する4年生と退任される先生方を送り、4月から入学する高校生を歓迎するとともに、地域の子どもたちを楽しんでいただくことを目的として、毎年、年度末に開催される。学生実行委員の企画運営により、授業やサークル、また、個人で研鑽を積んできた成果を発表する場となっている。



【クリエ幼稚園】

東キャンパスに隣接する本学附属の幼稚園。「明るく、聡く、たくましく」を教育目標に、のびのびとした保育を行っている。六角形の建物がおしゃれでかわいい。クリエ幼稚園の北側がフットサルコート。



【東西キャンパス シャトルバス】

東キャンパス、西キャンパスを結ぶ無料のシャトルバス。11:30~20:00まで、30分間隔で行き来する。



石川：僕も毎日行ってたよ。普通の市立の図書館へ行くよりも、子ども向けのものがすぐ見つかるし。しかけ絵本、すごいよね。今度クリエ幼稚園で借りようとしているんだけど、カードがないもんだからどうしようかと相談してる。

伊藤：私も1、2年のときは7階にずっといたんです。7階の暖かいところが好きで。でも、人が多いんです（笑）。だから、3、4年になってからは5階のエレベーターを降りたすぐのところ。

石川：ちょっとしたスペースに机があって、ソファがあることだね。取り合いにならないの？

伊藤：仲のいいグループがいて、そこに便乗してそこでご飯を食べて、3年のときは空きコマがよくあったので、そのときはトランプとUNOで（笑）。5階好きです。

実習は大変だけど勉強になる

石川：大学で身に付いたと思うこと、経験したことってどんなことがある？

鵜飼：4大か短大かで迷っていて、大学生活を充実させたいというのもあったので4大を選んだんですけど、今4年生になってみて、たぶん短大の子たちはそのまま保育士か幼稚園受けるという一本の道しかないように思うんです。だけど、自分は4年間でバイトもいっぱいやって、自分のやりたいこともいっぱいできて、そうした経験があって、保育の仕事でどこへ進もうか悩んでいるんだと思うんです。4大にしたから考えられるのかなと思っています。

伊藤：なんていったらいいのかわからないですけど、やっぱり実習からいろんなことが学べたかなと思います。私1年のときからバイトで保育園に行ってるんですけど、実際に1日、実習でやってみるとバイトのときとは違って、子どもがいないときにやることもたくさんあるし、前の日とか事前準備もやっぱりいっぱいだし、記録もすごくたくさんあるし……。大変だったけど、私はやっぱり実習がすごくいい経験になったと思います。学べたことが多かったです。

酒井：私も、やっぱり実習が大きくて、その前に習った指導法の授業だとか、本当に実習で役に立ちました。3免を取って思ったのが、小学校の実習へ行ったときに、担当が1年生だったというのもあるんですけど、本当に保育実習で学んだことがそのまま使えることがあって、やっぱりつながっているんだなと感じました。

石川：すごく素敵なことに気づいたね！ 幼稚園保育園を目指す人にとっても小学校の免許が取れることは、すごく意味があることだと思うよ。年長は、小学校の最初をちょっとだけかじるようなところもあるし。

谷坂：毎日の授業の中で子どもの発達段階とか学んだり、高校生のときは全然やらないことなので新しい経験ですよ。大学に来たからこそよかったというか、指導案の作り方とかもゼロから始めたことで、身に付いたことかなと思います。

日佐：サークルの中で先輩とかかわったり後輩とかか

わる中で、今、自分たちが動かしていかなきゃいけない計画があるんですけど、今まで自分が中心になって動かしていくようなことってなかったんです。それが学べてすごく良かったなと思います。



石川：影響を受けた先生はいますか？ 僕は、**安部先生**。3、4年のゼミの先生で、しゃべるときに安部先生ならきょう話さだらうと、それぐらい影響されていたことがある。

日佐：自分の職業を決めたのは保健の講義だったので、私はその先生だなあって思います。

谷坂：結構しゃべったりする先生はいるんですけど影響って、うーん。小学校の先生になろうと思ったのは先輩にいろいろ勧められたりして決めたんですけど。ああ、でもそうやって決めて最初に話したのは**久保先生**でした。

石川：久保先生はゼミ？

谷坂：1、2年のゼミです。

酒井：私も3、4年のゼミの先生ということもあって久保先生に、今も願書とかの書き方でお世話になってます。小学校の実習中に土曜日は先生のところへ行って指導案のことについて相談させていただいて、やっぱり相談しやすい先生ですよ。

石川：確かに話しやすいもね。

伊藤：私は、**南先生**が一番しゃべりやすいし、何ですかね、幼稚園の実習のときも、一緒に考えてくれるし、『ここは、こうよ!』といってくれるし、すごくやりやすいです。親しみやすいというか。

鵜飼：私は安部先生です。あまり直接、安部先生とお話したことないんですけど、会話しているときに、ちゃんと見てくれてる感じがします。実習のときに一度、訪問指導して下さって、実習先にごく腰が低くて丁寧なんです。私のためにこんなに頭を下げてくれるんだ!と印象的でした。みんなこわい先生だというんですけど、そんなことなくって、すごい先生だなと思ってます。

石川：僕もそう思います(笑)。

3免取るのがお勧め

石川：みんな3免取ってるんだっけ。

(5人中2人は幼保のみ)

谷坂：大変です。大変。

結構きついですね。

小学校だけの人に

くらべると全然、

その人の休みの時間

にも幼保の授業

が入っていたりとか、

逆に幼保だけの人から

すると、その人が休みの

時間に小学校の授業が

入っていたりするので、

でも、取れるんだっ

たら取っておこうと

やっています。

鵜飼：3つ取っただけのほうが良いと思います(笑)(鵜飼さんは幼保のみ)。最後の施設実習で、初めて小学生、中学生、高校生とかかわらなきゃいけなくて、接し方がわからなくて困りました。大きいし、どうやってしゃべっていいかわからない。幼稚園保育園とは全然違う、言葉が通じ



【東キャンパス学食】

マーボー飯(味噌汁付き 320円)。このほか、まぜまぜ丼(350円)も人気。



【1号館】

人間発達学部の講義は主に1号館で行われる。3階、4階にロビー、7階に広いスペースがあり、そこで空き時間を過ごす学生が多い。



【安部孝】

(あべたかし)
子ども発達学科長
教授

《主要な担当科目》

- 教育原論
- 保育内容総論
- 保育課程論
- ゼミナールIII
- ゼミナールIV
- 教育実習指導(幼稚園)
- 教育学特論(大学院)
- 教育学特演(大学院)



【久保博満】

(くぼひろみつ)

准教授

《主要な担当科目》

- 国語(書字を含む)
- 国語科指導法
- 保育内容演習 言葉
- 保育・教職実践演習(幼稚園)
- 教育実習指導(小学校)
- 入門演習
- ゼミナールIII
- ゼミナールIV



【南元子】

(みなもとこ)

准教授

《主要な担当科目》

- 保育内容「表現」
- 保育内容と方法
- 子ども文化創造論
- 教育実習指導(幼稚園)
- 教職実践演習
- 入門演習
- ゼミナールIII
- ゼミナールIV
- 表現活動特論(大学院)
- 表現活動特演(大学院)



【オリエンテーション合宿】

入学してすぐに行われる最初のイベント。1泊2日でこれからの学校生活について学んだり、新入生同士の交流を図る。



は大きいと思いますね。そのとき初めて実感しました。

石川：3つ取ることを勧める？

鵜飼：(うん、うん、とうなずく)

石川：堅い話をすると、今、幼小連携がどんどん進められて、初等教育がまた1段階下がるかもしれないしね。幼稚園年長から小学校のほうへ入るかもしれない、みたいな感じ。これからそうやっていきそうだから、本当に小学校も取っておいたほうが良いと思うよ。

幼保しか取っていないと、短大とカリキュラム的には同じ。だけど、短大より2年余分にあるわけじゃないですか、そのあいだ何をやるかだよなあとは僕は思うよ。

僕は学生時代、毎日、折り紙を1つでも折ろうと思ってやっていた。毎日、1つでも1年間続ければ得意になるじゃん。少しでも得意なものを作ろうと思って。余分にある2年間の過ごし方が本当に働き始めてから役に立つと思う。いろいろやっておくといいよ。たぶん、小学校もそうだと思うんだけど、教職って、これの役に立つからこれをするじゃなくて、役に立ったときに初めて、これをやっておいて良かった、と思うものだと思います。何が役に立つのかわからないから、いろいろなことを経験しておくのがいいと思います。学生の頃は、やるかやらないか選択できるときは、やるようにしていたよ。4年生の子、僕がオリエンテーション合宿に行ったの覚えてる？

4年3人：うんうん。

石川：**オリエンテーション合宿**で、PowerPoint使ってたの覚えてる？

4年3人：うんうん(笑)。

石川：えっ、覚えてる! すごいね! そういうこともやったし、「春を呼ぶ芸術フェスティバル」でも舞台監督をやったし、いろんなことをやっておくのがいいと思います。

名芸の子は、人は1111けど……

石川：もっとこうしてほしいってこともあったらぜひ。

谷坂：名芸の学生は、やる気もある子どもが好きという気持ちも持っていて、人はすごくいいけど、記録の書き方とか指導案の書き方がうまくないみたいなことを実習先のOGの人にいわれた。大学で、もうちょっとをしっかりと教えてもらったほうが良いよ、みたいに。

石川：みんなもいわれた? 実習先とかで。

伊藤：記録が変! みたいなことを……。

鵜飼：この形式は初めて、みたいなことはいわれましたね。

伊藤：指導の授業でも、ほかのことはすごく指導されるんですけど、記録の書き方とかは説明もなくて。個人的に聞いていたから何とかかなりましたけど……。

鵜飼：実習に行って、書き始めてから教科書を見たり、短大の友達に聞いたり……(笑)。

石川：わかる。僕も先輩の記録、借りたもん。確かに、書き方ってあまり学校ではいわれてないね。毎日、書いてるとすぐ慣れるものだけど、もうちょっと教えてもらったほうが良いかもね。



『matsu』
Acrylic on Canvas

動物の力を借りて



『こしよ』 水彩 2009



Vol.73
NUA-OG
石倉悦加
(いしくら えつか)
アートクリエイター



実家の元子ども部屋、自分と姉の育った部屋を改装したというアトリエにお邪魔した。簡素ながらもどこか暖かさを感じる心地良い空間だ。「おえかき教室」も同じ場所で開かれているようで、壁には生徒さんのものと思われる子どもらしい作品も飾られている。そして、フレンチブルドッグである。部屋のそこそこに、顔が見える。絵の中の空間でひとり遊びに興じていたり、おもちゃのピアノをならしていたり、ぽつんと膝を抱えていたり……。家族が写した幼子のポートレートのように慈愛に満ちた視線で描かれ、なぜか懐かしいような感覚にとらわれる。そして、こちらを見つめる瞳の向こうに物語を感じさせる。



「大学3年生のときに、版画コースを選択できたというのが運命の分かれ道でしたね」 本学には洋画コースで入学したものの、自分のやりたいことが思うようにできず制作に打ち込めずにいた。どうにかしてそんな自分から

脱却したいという思いから選択したのが版画だった。「版画コースに入って版画の勉強をさせてもらって、絵が何枚もできる、そのことが面白くて、面白くて。それから、足跡も版画なんだよという話から始まって、これも芸術、あれも芸術、それも芸術なんだよ、と教えてもらえたこと。『あっ、私、全然違っていたかも』と思いました」 それまでの、絵画はこうあるべき、芸術とはこうあるべきという芸術の概念にとらわれすぎていた自分に気が付いた。現代美術に触れ、自分が考えていた芸術がいかに偏狭なものだったかに気が付いた。目から鱗が落ちるように思った。



現代美術の息吹を受け作品は変わっていった。しかし、迷い続けていた。「自分の作品についてもどれだけ語ることができるか、そんな勉強をしながら、すごく頭でっかちになってしまって、当時の作品を見るとコンセプトありきの作品で、目新しさはあったんですけ

ど好きじゃなかったんです。迷って、迷って、何を作っているのか自分でもわからない作品



ばかりなんです」 版画コースでの最初の講習会のことが忘れられないという。自分の作品について説明ができず、しどろもどろになり、頭の中は真っ白、半泣きで説明した何が話したかは覚えていない。

迷いながら制作を進める中で、ドローイングを体験した。たくさんの絵を描いた。単純な線で自分の気持ちを形にしていくうち、描くものすべてが幼い頃の記憶に結びつけることに気が付いた。記憶を形にとどめていくというテーマを見つけ、制作すること自体にも楽しみを見いだした。大学の4年を終えても研究生として大学に残り、作家として生きていこうと考え始めた。研究生修了後は作家として独り立ちした。作家といっても、ギャラリーでアルバイトし、デザインの仕事も受け、イラストも描くという、さまざまな仕事

- 1974年 名古屋市生まれ
- 1996年 名古屋芸術大学美術学部絵画科版画卒業
- 1997年 名古屋芸術大学美術学部絵画科版画研究科修了
- 2003年 サンフランシスコ creative growth art centerにて滞在制作
- 2010年 Remisenデンマークにて滞在制作

Creative Growth Art Centerにて自立した芸術に開発され、絵のほか、アートグッズ、かばん、Web制作など、幅広く活動。
 今回、肩書は、アートクリエイターとしているが、本人曰く、画家、イラストレーター、デザイナー、石倉絵画造形教室のえっちゃん先生……とのこと。活動の幅が広く決まらないのだそう。

- 2016年 個展(新宿伊勢丹ART&FRAME壁面/東京) 予定
- 個展(LOFT名古屋グラフィックス/名古屋)
- 40cm角の花畑(レイモンド花畑保育園/東京)
- 2015年 個展(garage/豊橋)
- 私の一点(織部亭/愛知県一宮) '15.13
- 2014年 グループ展(岡山ロフトグラフィックス/岡山) '14.13
- 個展(広島SOGOグラフィックス/広島)
- 2013年 ネコニコいぬ展(art sea/茅ヶ崎)
- 猫フェス(阪神梅田/大阪)
- 個展(ギャラリー芽菜/名古屋)
- 個展(名古屋ロフトグラフィックス/名古屋)
- 2012年 ART NAGOYA(ウエスティンナゴヤキャッスル/名古屋)
- '12.13
- 「ぼくご展」(桜ヶ丘ミュージアム/豊川) '12.11.10
- 2011年 個展(阪神百貨店APJ/大阪)
- 個展(高島屋 air works/名古屋)
- 個展(ぶなの木/愛知県東郷町)
- 2010年 個展(高島屋 air works/名古屋)
- After Remisen(gallery BE/名古屋芸術大学)
- 個展(岩田屋APJ/福岡)
- Remisen(デンマーク)
- 2009年 個展「portrait」(ギャラリー芽菜/名古屋)
- 2008年 個展「banbino」(ぶなの木/愛知県東郷町)
- 2007年 個展「murmur」(ギャラリー芽菜/名古屋)
- 2006年 個展「Narrative」(ぶなの木/愛知県東郷町)
- 個展「原画とかばん」(ジェイアール京都伊勢丹APJ)
- 「Artist T-shirts Bag展」(東京大丸APJ, 新宿高島屋エアーワークス)
- 2005年 「メッセージアート展」(LOFT渋谷・池袋・梅田・大宮・横浜・札幌APJ)
- LOFT渋谷店ライブイベント
- 個展「白山羊家の原画とかばん」(伊勢丹新宿店APJ/東京)
- ART LIFE(フォーラムアトショップ/Za Gallery 文京)
- 個展「白山羊家」(ギャラリー芽菜/名古屋)
- 2004年 Dialogue Project(船橋市民ギャラリー)
- 2003年 HOT SAKE(Creative Growth Art Center/San Francisco)
- INDEX(ギャラリー芽菜+名古屋三菱自動車ショールーム)
- 2002年 家(名古屋芸術大学BE ギャラリー)
- 2001年 cubic(豊田市美術館ギャラリー)
- それぞれの物語(船橋市民ギャラリー)
- EXPO FACON JAPON-I-2001(La galeri/リヨン/フランス)
- 2000年 ベトナムタイ日本現代美術交流展(船橋市民ギャラリー)
- Ich ideal(七穂邸/江南)
- 1999年 come across 2人展(一宮/織部亭)
- Japaness happiness or un happiness 展(suandusit Gallery/パソコ)
- 1998年 30painters展(ワグラーデシュ)
- 1997年 交錯のもと(ガレリアフィナルデ)
- 個展(ギャラリー DECO)
- 1996年 街はアートで溢れる/'96'97(一宮)
- 1995年 全国大学版画展(町田国際版画美術館)
- 次代の版画(愛知芸術文化センターアトスペースX)
- 1994年 K109展/'94'95'96'97(名古屋市民ギャラリー)
- PRINTS'94'95(名古屋市民ギャラリー)



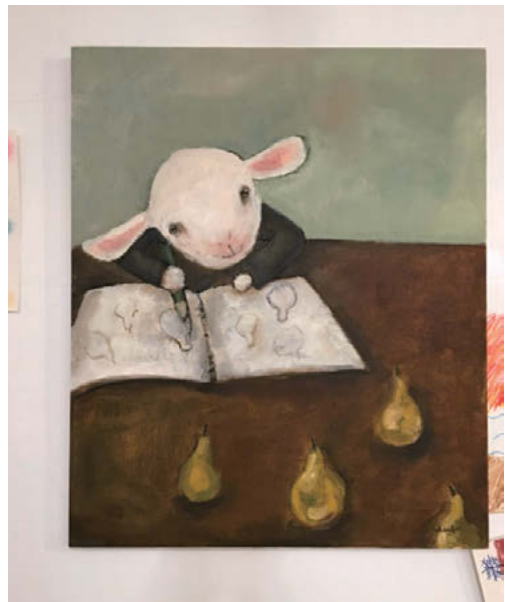
『COUCOU』 mixedmedia 2013



Remisen デンマーク滞在制作



自分の作品が自分のところだけでなくて別のところで生きていく、ということが大前提としてあります。アートなだけに雑貨でもあって、手に取りやすいとか目に入りやすい気楽なものであっていいんです。動物の力を借りて読んでいく作品作りを始めたなら、どっちもやりやすくなりました



『洋なし』 Acrylic on Canvas 2013

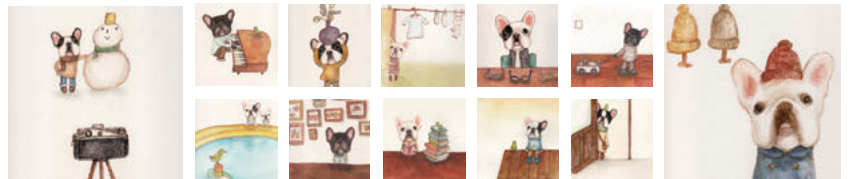


『空色のくるま』 Acrylic on Canvas 2016



『portrait』 Acrylic on Canvas 2009

『2016 calendar』より 水彩 2015



を受けてのスタートだった。作品の制作を続けていたものの、このまま作家としてやっていけるのか心配だった。そんな中、渡米、サンフランシスコにある「Creative Growth Art Center」に赴く機会を得た。障害者たちによる、いわゆるアウトサイダーアートに触れ、衝撃



影響を受けたCreative Growth Art Centerのアーティストたち

を受けた。作品もさることながら、作家たちの制作に取り組む姿勢、一心に打ち込む純粋さに心を動かされた。帰りの飛行機の中で自分を振り返り猛省した。「たぶん、このまま帰っても前と同じようなだらけた生活を送ってしまうと思ったんです。それで、飛行機が日本に着くまでにこれからやりたいことをメモに書き留め、今後の活動を決めてしまおう

と必死になって考えたんです」 その中から出てきたのが、もっと自分の思いを代弁してくれるような具体的なものを絵にしたい、という思いだった。そして、Creative Growth Art Centerの作家と作品たちを反芻するうちに「眼のある動物に頼ってみよう」というアイデア



が浮かんでいた。帰国後、Creative Growth Art Centerとの交流展が開かれると、そこに登場したのが「白山羊」だった。すこし怖く、優しくもあり、力強い意志を感じさせ、物静かに語る山羊の眼。以降、吹っ切れたように動物の作品を発表していく。

「フレンチブルドッグは、NYへ行ったときにおじいさんが連れて散歩しているのを見て一目惚れです。トゲトゲの鋏の付いた首輪をしておじいさんのSP気取りでいるのが可笑し

くって、可愛くって。それで自分でも飼い始めたんです」 飼っているうちに、表情の豊かさに魅了された。「フレンチブルドッグの眼も妙に人間っぽくて、嬉しいときには嬉しい顔、退屈なときには退屈な顔、人間のような表情をするんです。人間っぽさに気付いて、それでフレンチブルドッグを描くようになっていきました」

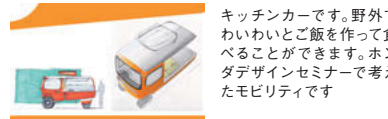
モチーフになっている動物たち、特にフレンチブルドッグは、3歳児くらいの子どもに見立てて描いているという。「自分の犬がモデルのときもあれば、子どもの頃の記憶のときもあるし、自分の子どもやおえかき教室の子どもたちを作品の芯にすることもあります。何をやっているのか、表情や性格を想像しながら描いています」 あらためて作品に目をやると、動物たちそれぞれに異なる表情が宿っていることがわかる。こちらを見つめる瞳に惹きつけられたのは、作者の想像力がたっぷりと注ぎ込まれていたからだとわかった。



Vol.74
NUA-Student
小山楓矢
(こやま ふうや)
デザイン学部
インダストリアルデザインコース 4年



「金の卵 オールスターデザイン ショーケース」というコンペに出した作品です。バックトゥザフューチャーというテーマが与えられて、伝統を今のデザインにどう生かしていくかという問題提起から、宮大工が使う木組みをおもちゃに取り入れ子どもが遊ぶことで自然と仕組みや木の良さも伝承できると考えて作りました。木工場で、夏休み中、つきっきりで手伝ってもらって作りました



キッチンカーです。野外でわいわいご飯を作って食べることができます。ホンダデザインセミナーで考えたモビリティです



サイクリングカー。リアのキャリアに2台の自転車を積むことができ、ツーリングに出かけることができる



デザイン実技ではクレイモデルの制作を行う。サイクリングカーのデザインは、自転車のヘルメットがモチーフ

戦闘機をモチーフとした一人乗りスポーツカー



4年生、就職活動中?

そうですね。自動車会社に行きたくて、3年生のときから活動しています。デザインなのでちょっと特殊で、ワークショップに参加したりインターンに行ったりしています。

ホンダの「ホンダデザインセミナー」は毎年、名芸で開かれているよね。参加した?

はい、去年の夏のセミナーに参加して、今年の春のインターンにも参加しました。マツダのクレイモデルのデザイン実習にも応募したんですが、落ちちゃったんですけど……。いろいろ活動しています。

クルマのデザイナーが目標なんだ。デザインに進んだきっかけは? やっぱり子どもの頃からクルマ好き?

それが、高校までは、建築士になりたくて理系で数学の勉強していたんです。ただ、小学校1年のときから絵画教室で絵を描いていて、美術部の顧問の先生から『お前は、美大に行ってみたらどうだ』と提案されて、そこから建築デザイナーというインテリアなんかをデザインする職業があることを知り、だんだんとデザインを自分で調べていったという感じです。高校3年の夏に美大に行こうと決心して、まずは予備校の夏期講習を受けてみたんです。2週間という短い間なんですけどすごく高い授業料で、絵を勉強するのにそんなに費用がかかるっていう感覚がなかったんで、美術大学へ行くということは大変なんだなと実感しましたね。講習を終えて、どこを受けようかとなったとき、その美術部の先生がたまたま名芸のOBでそういう縁もあって入りました。

じゃあ最初は、ID(インダストリアルデザイナー)じゃなかったんだ。

決めてませんでしたね。意外と何でも興味があったんです。メディアデザインというのに興味があって、すごく迷いました。でも、やっぱりモノをデザインしたいなと思ってIDに進みました。1年生のときに、デザインのファンデーションで「回転体による成型実

習」「多面体と植物文様」、という授業があって、そこで褒められたことがきっかけかもしれません。僕は、「くらげ」というテーマでやっていたんですけど、自分からしたら見るからに気持ち悪い形なんです(笑)。こんなのが選ばれるのかと思って、自分でも気が付いていなかったことがほかの人にとっては評価されることなのかな、と思いました。やってみないとわからないことだと思います。それで、立体が評価されるということは、そっち方面が自分の力を発揮できるかなと思ってIDに進むことにしました。

デザイン学部のファンデーションが良かったんだね。

そうですね、先生のおかげですね(笑)。

自動車のデザイナーは厳しい世界だよ。片岡先生も絵をたくさん描けてたってでしょ。描いてる?

描いてますよ、描きまくってます。先生の話も聞いてるよりも、絵を描いているほうが自分のためになるかな、みたいな(笑)。



いつ描いてるの? 講義中なの(笑)

電車の中で描いてます。僕、豊橋から通ってるんですけど、名古屋までの間、長いので電車の中で描いてる

んです。片道2時間ちょっとあります。もう、スケッチブックは10冊以上になってるかなあ(スケッチブックを取り出し、パラパラめくる。落書きもあるけどクルマの絵がいっぱい)。

やっぱりクルマが多いね。

本当にラフな感じで描いてるんですけど、クルマが多いですね。自分の好きな形をアウトプットしたいということと考えていることを繰り返し形にしてみよう確認してるような感じなのかな。

自動車会社に受かったとしたらどんなことがやりたい?

それはもちろんデザインですけど、インテリアデザインをやりたいんです。インテリアは、人と一番接する場所ですから。インテリアとプロダクト製品は考え方が似てるような気がして、自分としてはそちらのほうが向いているのかなと感じています。今までの作品を見てみてもそう思いますね。エクステリア的な感性よりは、どちらかというとプロダクト的な考え方のほうが好きなんです。

エクステリアは、ちょっとエゴイスティックなところがなく面白くない気がするね。そういつた「オレはこれがやりたいんだー!!」みたいなことはないの?

そういう信念みたいなものは、どちらかというところなかったですね。ただ、描くこととモノを作ることがずっと好きだったので、それは絶対仕事にしたい、と思いましたね。それで人を喜ばせられたら、一石二鳥だなと。いつか人の役に立つような結果が得られれば一番いいかなって思っています。

人間発達学部

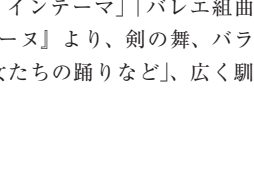
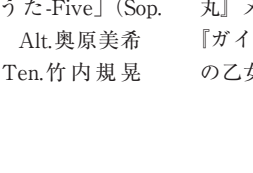
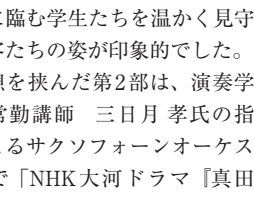
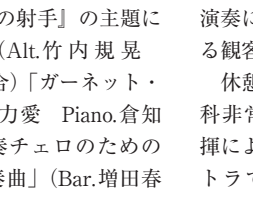
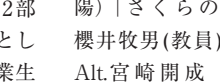
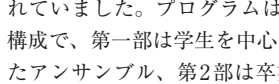
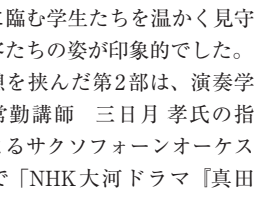
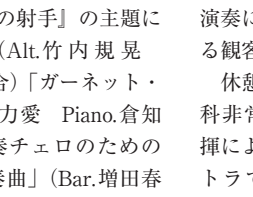
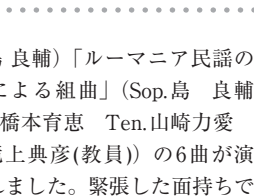
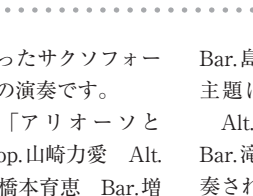
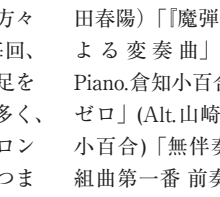
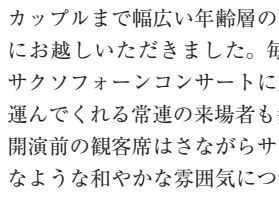
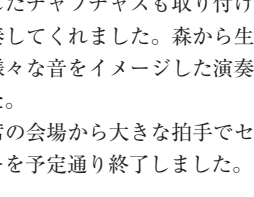
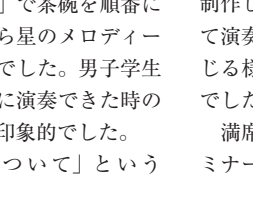
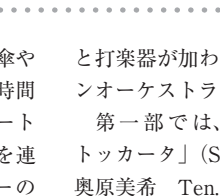
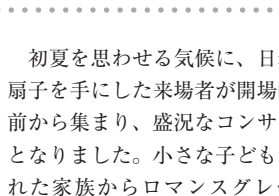
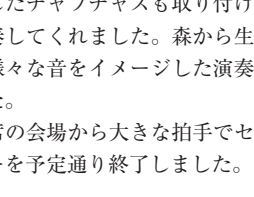
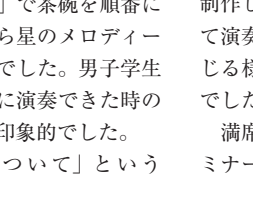
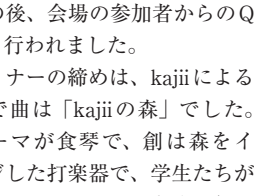
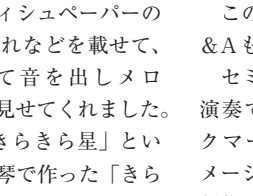
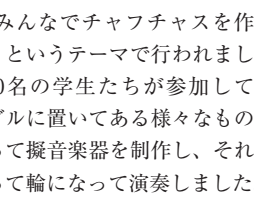
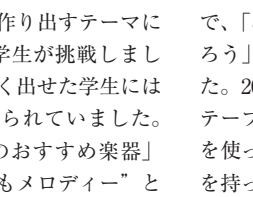
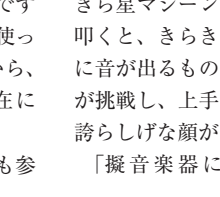
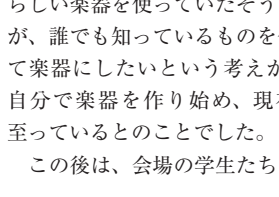
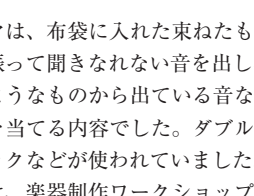
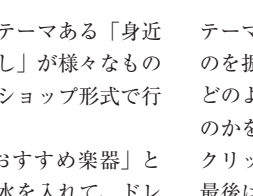
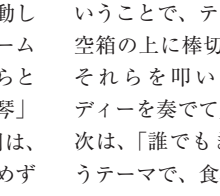
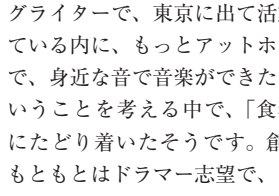
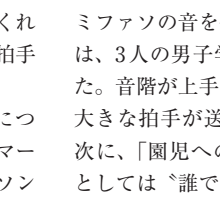
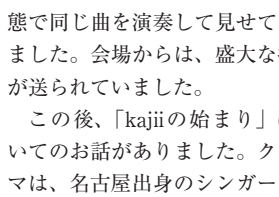
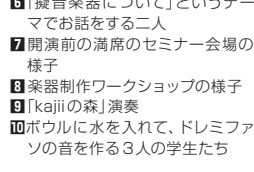
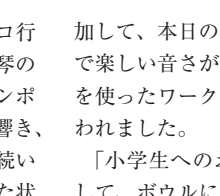
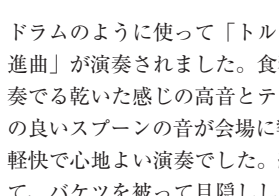
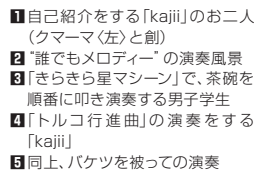
文化創造セミナー 「身近で楽しい音さがし」が 開催されました

2016年5月26日(木)、本学東キャンパス1号館701教室で、人間発達学部主催の文化創造セミナー「身近で楽しい音さがし」が開催されました。この文化創造セミナーは、毎年行われている人間発達学部の恒例行事で、各界から様々なゲストをお呼びして特別講義や講演会、ワークショップなどが行われています。

今回のゲスト「kajii」は、日用品を使って音楽を演奏するクマーマと創のユニットです。茶碗、どんぶり、湯のみなどを使ったオリジナル楽器「食琴(dishphone)」をメインに身の回りにあるあらゆる日用品で音楽を奏でるユニット。名古屋拠点に日本中、世界中を駆け巡っています。「kajii」という名前には、日常生活の中から「家事」、工夫して楽器を作り「鍛冶」、新しい風を生む(風)という3つの意味が込められています。

セミナーには人間発達学部の1・2年生全員と、3・4年生の希望者が参加。司会進行は准教授の南元子先生でした。満席の会場に、後方中央の扉から、「食琴」を肩から掛けたクマーマと、洗濯板を中心にいろいろなものを取り付けた楽器を首に掛けた創が、拍手に送られて入ってきてセミナーがスタートしました。

簡単な自己紹介の後、「まず、演奏を」ということで、クマーマが食琴で、創は木製のスプーンを



1 自己紹介をする「kajii」のお二人(クマーマ(左)と創)
2 「誰でもメロディー」の演奏風景
3 「きらきら星マシーン」で、茶碗を順番に叩き演奏する男子学生
4 「トルコ行進曲」の演奏をする「kajii」
5 同上、バケツを被っての演奏
6 「擬音楽器について」というテーマでお話をする二人
7 開演前の満席のセミナー会場の様子
8 楽器制作ワークショップの様子
9 「kajiiの森」演奏
10 ボウルに水を入れて、ドレミファソの音を作る3人の学生たち

ドラムのように使って「トルコ行進曲」が演奏されました。食琴の奏でる乾いた感じの高音とテンポの良いスプーンの音が会場に響き、軽快で心地よい演奏でした。続いて、バケツを被って目隠しした状態で同じ曲を演奏して見せてくれました。会場からは、盛大な拍手が送られていました。

この後、「kajiiの始まり」についてのお話がありました。クマーマは、名古屋出身のシンガーソングライターで、東京に出て活動している内に、もっとアットホームで、身近な音で音楽ができればということを考えている中で、「食琴」にたどり着いたそうです。創は、もともとはドラマー志望で、めずらしい楽器を使っていたそうですが、誰でも知っているものを使って楽器にしたいという考えから、自分で楽器を作り始め、現在に至っているとのことでした。

この後は、会場の学生たちも参

加して、本日のテーマある「身近で楽しい音さがし」が様々なものを使ったワークショップ形式で行われました。

「小学生へのおすすめ楽器」として、ボウルに水を入れて、ドレミファソの音を作り出すテーマには、3人の男子学生が挑戦しました。音階が上手く出せた学生には大きな拍手が送られていました。次に、「園児へのおすすめ楽器」としては「誰でもメロディー」ということで、ティッシュペーパーの空箱の上に棒切れなどを載せて、それらを叩いて音を出しメロディーを奏でて見せてくれました。次は、「誰でもきらきら星」というテーマで、食琴で作った「きらきら星マシーン」で茶碗を順番に叩くと、きらきら星のメロディーに音が出るものでした。男子学生が挑戦し、上手に演奏できた時の誇らしげな顔が印象的でした。

「擬音楽器について」という

テーマは、布袋に入れた束ねたものを振って聞きなれない音を出し、どのようなものから出ている音なのかを当てる内容でした。ダブルクリックなどが使われていました。最後は、楽器制作ワークショップで、「みんなでチャフチャスを作ろう」というテーマで行われました。20名の学生たちが参加してテーブルに置いてある様々なものを使って擬音楽器を制作し、それを持って輪になって演奏しました。

この後、会場の参加者からのQ&Aも行われました。

セミナーの締めは、kajiiによる演奏で曲は「kajiiの森」でした。クマーマが食琴で、創は森をイメージした打楽器で、学生たちが制作したチャフチャスも取り付けて演奏してくれました。森から生じる様々な音をイメージした演奏でした。

満席の会場から大きな拍手でセミナーを予定通り終了しました。

音楽学部

名古屋芸術大学恒例の サクソフォンコンサートが 行われました

2016年5月14日(土)、本学東キャンパス3号館ホールで、演奏学科弦管打コースのサクソフォン専攻生による「サクソフォンコンサート」が行われました。このコンサートは、毎年春と秋の年2回行われているもので、学生を中心として卒業生や指導教員も加わって編成されています。

初夏を思わせる気候に、日傘や扇子を手にした来場者が開場時間前から集まり、盛況なコンサートとなりました。小さな子どもを連れた家族からロマンスグレーのカップルまで幅広い年齢層の方々にお越しいただきました。毎回、サクソフォンコンサートに足を運んでくれる常連の来場者も多く、開演前の観客席はさながらサラソンのような和やかな雰囲気につつまれていました。プログラムは2部構成で、第一部は学生を中心としたアンサンブル、第二部は卒業生

と打楽器が加わったサクソフォンオーケストラの演奏です。

第一部では、「アリオートとトッカータ」(Sop.山崎力愛 Alt.奥原美希 Ten.橋本育恵 Bar.増田春陽)『魔弾の射手』の主題による変奏曲(Alt.竹内規見 Piano.倉知小百合)「ガーネット・ゼロ」(Alt.山崎力愛 Piano.倉知小百合)「無伴奏チェロのための組曲第一番 前奏曲」(Bar.増田春陽)「さくらのうた-Five」(Sop.櫻井牧男(教員) Alt.奥原美希 Alt.山崎開成 Ten.竹内規見

Bar.島良輔)「ルーマニア民謡の主題による組曲」(Sop.島良輔 Alt.橋本育恵 Ten.山崎力愛 Bar.滝上典彦(教員))の6曲が演奏されました。緊張した面持ちで演奏に臨む学生たちを温かく見守る観客たちの姿が印象的でした。

休憩を挟んだ第2部は、演奏学科非常勤講師 三日月孝氏の指揮によるサクソフォンオーケストラで「NHK大河ドラマ『真田丸』メインテーマ」「パレエ組曲『ガイヌ』より、剣の舞、バラの乙女たちの踊りなど」、広く馴

染み深い曲が演奏され、会場は大いに演奏を楽しみました。三日月孝氏によるユーモアたっぷりの楽器紹介の後、タンゴの名曲をメドレーにした「タンゴ・ア・ラ・カルト」、70年代ディスコのヒット曲をメドレーにした「ディスコ・パーティー」と続き、盛り上がりは最高潮となりました。「ディスコ・パーティー」では、アフロヘアのかつらと教員の演奏による熱のこもったアドリブソロで、会場は大いに沸きました。その後、会場全体で「ふるさと」の大合唱。アンコールに『『マイ・フェア・レディ』より、踊り明かそう』で締めくくりとなりました。

演奏会の終了後、学生により熊本震災義援金の募金が呼びかけられ、名残惜しい雰囲気の中多くの来場者が支援を寄せていました。



1 サクソフーンオーケストラ
 2 「アリオーンとカッタータ」
 3 「ガーネット・ゼロ」
 4 「無伴奏チェロのための組曲第一番 前奏曲」
 5 「さくらのうた-Five」
 6 「ルーマニア民謡の主題による組曲」
 7 「ディスコ・パーティー」
 8 「ふるさと」
 9 三日月 孝氏によるユーモアたっぷりの楽器紹介
 10 東キャンパス3号館ホールはほぼ満席
 11 コンサートは大成功。演奏者・スタッフに笑みがこぼれます。皆さん、お疲れさまでした。

音楽学部
音楽学部同窓会
第35回 新人演奏会が
開催されました

2016年5月28日(土)、名古屋市熱田区 熱田文化小劇場にて、名古屋芸術大学音楽学部同窓会主催の第35回新人演奏会が開催されました。

本年3月に本学を卒業し、それぞれの分野で演奏家として将来が囑望されている方々です。毎年、卒業して間もない演奏家がフレッシュなステージを披露し、この舞台から活躍の場を広げていきます。本学卒業生も多く来場し、期待を込めて若手たちの演奏を見守ります。



1 佐藤 優さん(ピアノ)
 2 井上 明日香さん(クラリネット)
 3 三品 麗花さん(電子オルガン)
 4 山路 真里奈さん(ソプラノ)
 5 佐藤 笙子さん(ピアノ)
 6 早川 あみさん(ソプラノ)
 7 齋藤 健人さん(マリンバ)

プログラムは、佐藤 優さん(ピアノ) 無伴奏ヴァイオリンパルティータ第2番よりシャコンヌ／バッハ＝ブゾーニ、山路 真里奈さん(ソプラノ) 熱烈な願い／V. ベッリーニ すてきな春に／小林 秀雄 歌劇「シャモニーのリンダ」より「この心の

光”／G. ドニゼッティ、井上 明日香さん(クラリネット) クラリネットのための第一狂詩曲／C. ドビュッシー ハンガリー舞曲／L. ヴァイネル、三品 麗花さん(電子オルガン) Morphing／三品 麗花、佐藤 笙子さん(ピアノ) 幻想小曲集op. 12より

1. タベに 3. なぜ 5. 夜に／R. シューマン、早川 あみさん(ソプラノ) 花の春告鳥／小林 秀雄 歌劇「ラ・ボエム」より「私の名はミミ」／G. プッチーニ、齋藤 健人さん(マリンバ) マリンバ協奏曲より第3楽章／A. コッペル アメリン／E.

サミュ、7名による演奏でした。それぞれに、熱心に練習に取り組んだことを感じさせる好演が続き、ひたむきに音楽に打ち込んでいることを思わせる、気持ちの入った演奏会となりました。会場からは、惜しめない拍手が送られていました。

人間発達学部 **音楽学部**
東キャンパス教育懇談会が
開催されました

2016年5月31日(火)、本学東キャンパス1号館701教室で、2016年度音楽学部・人間発達学部共同の教育懇談会が開催されました。この懇談会は、大学に学生を送る側の高等学校や専門学校などと、学生を教育指導して就職・進学させ

る大学側の両者が、お互いの意思疎通を図り、連携や協同するために行われているもので、毎年この時期に開催されています。地元のアライズをはじめ、岐阜県・三重県・静岡県など東海地区の高等学校からの先生方をお迎えして行われました。懇談会は、第一部進学説明会、第二部懇親会、第三部キャンパスツアー(施設見学)、の三部構成で実施されました。

進学説明会では冒頭、学長竹本義明より挨拶が行われました。学長は来年度から実施される大学改革(音楽・美術・デザイン・人間発達の4学部5学科を2学部2学科に改変)について、その背景と狙い、また、期待される教育効果などについて述べられました。

続いて、新学部(芸術学部)の概要について、改革準備室長で学長補佐の萩原 周から説明が行わ

れました。今回の改革は従来の高い専門性、実技教育は保持したままで、時代が求める領域を超えた幅広い学びを可能にし、分野の横断、融合による学びの相乗効果をもたらし、社会の様々な場面で活躍できる人材を養成することが目的であるとお話でした。既設の3学部4学科を1学部1学科とし、芸術学部・芸術学科を設置。音楽・美術・デザインの3領域に新

たに芸術教養領域を新設して、それぞれの領域の中に多彩なコースが設置されます。コースの内容については、デザイン領域に新設される「文芸・ライティングコース」などを中心に説明が行われました。

続いて、音楽学部長の山田敏裕から挨拶を兼ねて、音楽領域についての説明がありました。領域内各コースのこれまでの変更点や、この春の就職状況などがデータブックを用いて説明されました。次に、新設される芸術教養領域について、担当教員の茂登山清文が説明しました。芸術教養領域（リベラルアーツ）の目指すもの、特に「名芸大における教養とは何か」について、発想力とコミュニケーション力を身に付け、広く現代社会において活躍できるゼネラリストの育成である点が強調されました。そして、アドミッション・カリキュラム・ディプロマのポリシーについての説明がありました。

この後は、人間発達学部についての説明が行われました。学部長星野英五の挨拶の後、人間発達学部の概要について、子ども発達学科長の安部 孝が説明をしました。総合芸術大学にあるメリットとして、芸術的感性を備えた保育者や幼稚園・小学校教員を育成することができること。新年度からは



- 1 懇親会で挨拶をする学長
- 2 新学部の概要を説明する秋原 周改革準備室長(右上)
- 3 音楽領域の説明をする山田敏裕学部長
- 4 芸術教養領域の概要を説明する茂登山清文教授
- 5 挨拶をする星野英五人間発達学部長
- 6 人間発達学部の概要を説明する安部 孝教授
- 7 キャリアサポートと奨学金制度について説明する橋本裕明学部長
- 8 懇親会会場の様子

AO入試や超領域入試で、芸術学部・芸術学科と一緒に入試を行うことができる点などが特色として挙げられました。また、人間発達学部の求める学生像や、4年間の学生たちの学び、学生の育ちの場面、学業・課外活動・学生生活などについての説明がありました。

次に、学生部長の橋本裕明が本学のキャリアサポートの内容と奨学金制度について説明しました。資料として配布されたデータブック2016を基にして、どのような

キャリアを持つ学生を育てているかについて、就職サポート状況（ガイダンス・インターンシップ・資格取得支援など）と進路就職状況について、また、奨学金制度について説明しました。

最後に、司会から本年度のオープンキャンパスの日程と内容についてアナウンスし、進学説明会を終了しました。

第二部の懇親会は、会場を移して2号館1階で行われました。学長の挨拶の後、音楽学部演奏学科

教授の竹内雅一の乾杯でスタートしました。出席された先生方と本学の教職員が個別に言葉を交わり、懇談する貴重な機会となりました。

第三部のキャンパスツアー（施設見学）は、希望する先生方だけをご案内して実施されました。

なお、西キャンパス（美術学部・デザイン学部）の教育懇談会は、同様の趣旨で6月3日に実施されました。

デザイン学部

広告表現論

(株)たきCI 統括部長

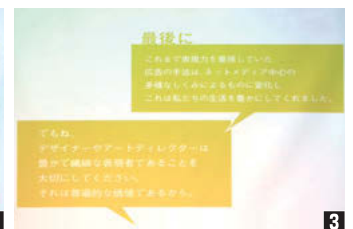
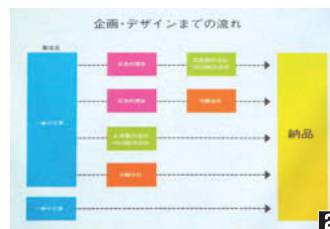
清水夏樹氏による

特別講義が行われました

2016年5月12日(木)、西キャンパスG棟207講義室で、広告表現論の特別講義が、(株)たきCI 取締役統括部長清水夏樹氏をお迎えして行われました。テーマは「企画・デザインの現場」というもので、広告制作会社の仕事内容や、広告が出来上がるまでの流れなどについて、清水氏がキャリアを通して体験されたり、学ばれたことなどが映像を用いて詳しく解説講義されました。

最初に自己紹介がありました。清水氏は44歳、本学の卒業生で2児の父親です。卒業後グラフィックデザイナーとして広告業界に入り、アートディレクターとしての経験を積まれて、クリエイティブディレクターとして現在に至っております。

デザイナーとなって最初の仕事



- 1 特別講義をする(株)たきCI 取締役統括部長清水夏樹氏
- 2 広告の企画・デザインまでの流れ
- 3 最後の言葉
- 4 特別講義会場の様子

として紹介されたのは、住宅展示場の新聞や折り込み広告等で、自分のデザインしたものが世の中に出ることの感動を今でも覚えているとお話でした。このころに、DTPのオペレートに悩みながらその基礎を学んだそうです。

二十代の仕事として紹介されたのはマス媒体中心のポスターで、いくつかの百貨店のキャンペーンでした。それぞれの作品の制作意図や過程についての説明がありま

した。この時期は、作品の制作を通じていろいろな人との出会い、パートナーとの出会いが得られたとのことでした。

三十代の仕事については、大型ファッション施設や航空会社のキャンペーンなどが紹介されました。いろいろな仕事を覚えたこの時期に学んだことは、レイアウトと絵作り（フォトディレクション）だったそうです。

この後は、〈仕事を通じて学ん

だこと〉5項目について、具体例を上げながら解説されました。

ひとつ目は『レイアウト』です。レイアウトとは見た目をきれいに構成することではなく、見る人に情報が伝わる速度をコントロールすること「だそうです。作品から離れて見ること、客観的に見ることが大切とのことでした。

2つ目は『絵作り』です。航空会社の仕事に多く携った関係でいつも空を見ていたということで、

3枚の空の絵を例に挙げて「世界の都市の空を連想してみよう」とお話を進められました。「正解はないのですが、同じ世代を生きる人は共通の感覚を持っています。なぜそう見えるのかを意識したり、他の人はどう思っているのか考えることが大切です。色の混ざり具合などを意識して、ものやことを日頃から見ていくと仕事に役立ちます。フィルムで写真を撮ったりイラストを描いたりするのもいいですよ」とのお話でした。

3つ目は『アートディレクション技法』（得意技）です。伝えたい情報を表現に置き換えるため、

いくつかの技法を作品事例をベースに紹介し、得意な技を見つけることが将来役に立つと解説されました。

得意技を持つことはとても大切で、「絵」と「コピー」のうち、「絵」だけで伝わる原稿、「コピー」だけで伝わる原稿がお好きだとのことでした。その他、「インパクト」や「演出」という技法についても解説がありました。

4つ目は『アナログの強さ』で、ショッピングモールの原稿を基に解説されました。「ものづくりの決め手は自分の感性を大切にすることで、アナログの強さは普遍的

です」とのお話がありました。

5つ目は『パートナーの力を生かすこと』です。広告制作会社の規模は様々で、20人以下の小規模な会社もたくさんあるとのこと。髪染めのポスターを、自分がプロデュースして女性デザイナー二人と組んで制作してそうです。チームでやる仕事を大切にしてほしい。また、出会いを大切に、創造力に磨きをかけることが重要とお話でした。

この後は、「デザイナーに求められる役割の変化」についてのお話がありました。インターネットやスマホなどの普及と発達により、

現在では、デザイナーに求められる役割がより多様化してきており、それらに対しても敏感になってほしいといくつかの作品を例に挙げて解説されました。

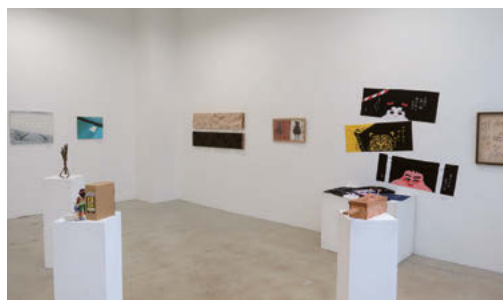
最後に、「これまで表現力を重視していた広告の手法は、ネットメディア中心の多様なしくみによるものに変化し、これは私たちの生活を豊かにしてくれました。でもね、デザイナーやアートディレクターは豊かで繊細な表現者であることを大切にしてください。それは普遍的な価値であるから」という言葉を学生たちに伝え、特別講義を終えられました。

美術学部

アートクリエイターコース・コレクション展が行われました

2016年5月13日(金)～18日(木)まで、本学西キャンパスアート&デザインセンターのギャラリー beスタジオで美術学部アートクリエイターコースのコレクション展が開催されました。

アートクリエイターコースは開設以来、様々な領域のクリエイターを育成することを主眼に、多彩なクリエイターを招き、あるいはその現場に出かけ、世の中に存在する多くのクリエイターの仕事を知り、それを学生たち自身の将来の仕事に繋げる大切な柱のひとつにしています。それらは『オーホック OHOC』と呼ばれ、在学中に100人のクリエイターに出会い、100種類のクリエイティブな



仕事があることを知り、自身が卒業時に101人目のクリエイターになる『101人のクリエイター One Hundred & One Creators』というプログラムです。

今回の展覧会では、そのような『OHOC』で関わっていただいた

クリエイターの作品や商品に加え、直接関わらなかったものの学生の資料として相応しいのでコレクションに加わった作品・商品も展示されました。

一方で、これまで実施された卒業展で優秀賞となりコレクションさ

れた作品や、卒業後の展覧会等で、学生たちの資料となると思われる作品もコレクションされてきた作品も展示されました。

期間中は、大勢のギャラリーが訪れ、見ごたえのある作品に眼を見張っていました。

デザイン学部

デザイン学部卒業生がミラノサローネサテリテで2nd Prizeを受賞!!

毎年ミラノで開催されるサローネは、約30万人の来場者を迎えるインテリアデザインを中心とし

て、世界各国から新進気鋭のデザイナーや企業が出展する国際家具見本市です。

その中でも、サローネサテリテは若手デザイナーを対象に全世界に応募がかけられ、選ばれた約100組だけが展示できる登竜門的なイベントです。

デザイン学部の元助手である服部隼弥氏と現助手の那須裕樹氏で結成されたデザインユニット「Bouillon (ブイヨン)」が、その中からさらに2nd Prizeに選ばれました。受賞、おめでとうございます。

作品である『Warm Stool』は、

椅子の座面に常滑焼を使用し、素材の暖かみと肌触りを活かした湯たんぽの機能を持ったツールです。プリミティブでシンプルな構造と造形は現代の空間にフィットし、朱泥の異なる焼成方法で朱色と黒色に変化する2色のトーンが美しいやきもの家具のシリーズ

Column NUA No.33

「菜根譚」の教えに学ぶ

人間発達学部教養部会教授 酒井 宏明

中国明代末の儒者に洪自誠という人がいる。彼は、四川の成都府新都県の出身と言われてはいるが、その経歴は一切分からないとされている。この人の著書とされる「菜根譚」には学ぶべきものが多くある。洪自誠も、ある時は、儒学を学び、学者・官僚とし

て世に出ることを考えていたであろう。しかし、時代は、彼に味方をしなかった。彼は、しばしば、時の失政を論じ、上書したが忌まわしがられ彼の考えは取り上げられず、彼は官を辞し故郷に帰る隠棲の中でこの書を書いたとされる。その一部を紹介する。

「人の悪をせめて善に向かわせようとする時、あまり厳しすぎたはいけない。その人が受け入れられるかどうかを考慮する必要がある。人を教える時、程度が高すぎたはいけない。その人が実行

できる程度にとどめなければならない」「自分が人に対して功労があったとしても、このことを念頭にかけてはいけない。人に迷惑をかけたならば、そのことを心に留めておかなければならない。また、人が自分に恩恵を施してくれたならば、そのことを忘れてはいけない。人に対する怨みならば、きれいさっぱり忘れ去ってしまわねばならない」「耳目の欲は外から侵入する賊で、情欲や我意は心の中にある賊である。このように内外の賊がわれわれの隙を狙って

です。
このことは、世界の様々なデザ

イン雑誌で紹介され、いくつかの
企業からは製品化に向けてのオ

ファーが届いています。今後の二
人の活躍が期待されます。

Bouillon (ブイヨン) HP アドレス
<http://www.design-bouillon.jp>



1 服部隼弥氏(左)と那須裕樹氏
2 Warm Stool
3 ブイヨン

名古屋芸大グループ校特集

名古屋音楽学校

当校は、各種の通常レッスンの他に多様な事業を展開しています。この地域の音楽文化振興や、音楽教育の指導者養成に貢献する事業として今春開催した事業をご紹介します。

第84回日本音楽コンクール受賞記念演奏会



4月21日(木)、愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、当校と毎日新聞社・セントラル愛知交響楽団の主催、NHK名古屋放送局他の後援で開催しました。

第1回は戦前の1932年という歴史と伝統に彩られ、若手音楽家の華々しい登竜門としても知られています。今回も各部門第1位に輝いた4名の受賞者たちをソリストに迎え、松尾葉子先生指揮のセントラル愛知交響楽団による共演がありました。

ソリストはバイオリン部門の小川恭子さん、トランペット部門の守岡未央さん、声楽部門の城宏憲さん、そしてピアノ部門の黒岩航紀さんで、卓越した技能と豊かな音楽表現で、鳴りやまない拍手が会場を包み込みました。次世代を担う若き演奏家として貴重な経験となり、さらに研鑽を積み才能を開花させ、世界に羽ばたく音楽家となっていただくことを願っています。

ダルクローズ・リトミック春期セミナー ～ミレイユ先生をお迎えして～



3月29日(木)から4月1日(金)の期間、日本ジャック＝ダルクローズ協会が認定発行する国際免許の取得を目指して、北海道から沖縄までの全国各地から90名を超えるリトミック指導者が参集して開催しました。

今回は、リトミックの創始者であるダルクローズの故郷、ジュネーヴから、長年ダルクローズ教育の先導者で活躍されているミレイユ・ヴェヴェール＝パルマ先生を招聘しての研修となりました。特に今回は、実践的な指導のあり方について、小学生20名に協力をいただき、子どもへのアプローチや具体的な指導法について研修できたことが、受講者の共感や今後のセミナーへの期待を膨らませ

ることになりました。

なお、夏期セミナーを8月17日(木)から19日(金)、来年の春期セミナーはイギリスから講師を招聘して3月29日(木)から4月1日(土)の開催を予定しております。

また、当校の今後の事業としては、音楽大学や音楽高校への進学を目指す受験生のために、7月から8月にかけて受験準備講習会や楽典教室などの特設講座、中日ビル(名古屋：栄)50周年記念イベントの一環であるロビーコンサートの企画・演奏の協力、ジャズバイオリン・ワークショップなどの開設の他、名芸大グループである名古屋芸術大学保育専門学校との学生支援のための連携事業を図っていく計画です。

いる。しかし、主人公である本心さえ、しっかり目ざめて、心の中心にあって心全体を見張っていれば、内外の賊は家来となるであろう」「無位無冠の人でも、世のため人のためにすることがあれば、それはもう無位の宰相である。高位高官の人でも、ただ権勢をむさぼり、恩をうるだけならば、それはもう爵位を有する盗人である」「多数の人が疑っているからといって、自分の意見を曲げてはいけません。さりとして、自分の意見のみを信じて、人の正しい意見を無視し

てはいけません。また、小さな私恩を施して大局を見そこなってははいけません。世論の力を借りて私情をばらすようなことをしてはいけません」

「菜根譚」の書名の由来は、宋代の儒者が「人よく菜根を噛み味わえば、則ち百事なすべし」と評価したことに始まると言われている。それだけに一つ一つの教えを今一度じっくりと噛みしめ、味わってみたい。また、ここに取り上げた教えは、日頃の心のありようについての教えでもある。

洪自誠は「菜根譚」の最後のところで「人生の波風が穏やかに静まった時にこそ人生の真実の姿が見える。淡泊な味を味わい、静かな声なき声を聞くところこそ人間の心の本来の姿が分かる」と言っている。「声なき声を聞く」ことは、私が人と関わる仕事を長く続けてきた中で、最も大切にしてきたことだと言ってよい。この教えを深く肝に銘じて、これからの与えられた仕事に取り組んでいきたいと思う。



2008年 しらかわホールでのコンサート



2007年 しらかわホールでの演奏会形式オペラ「ナブッコ」を歌う

マスター ↑↓to アーティスト 【第33回】

＜歌い続けて＞



インディアナ大学研修当時(1992年)

澤脇達晴 音楽学部 教授

(さわわき みちはる)

- 1950年 静岡県生まれ
- 1974年 愛知県立芸術大学音楽科卒業
- 1977年 東京芸術大学大学院音楽研究科修了
- 1978年 静岡県音楽コンクール 第2位受賞
- 1984年 日伊コンクール 第1位「シエナ大賞」受賞
- 1989年 ニッカバリトン賞 第2位受賞
- 1990年 愛知県名古屋市・岡崎市においてソロリサイタル
- 1992年 渡米、インディアナ大学客員研究員としてヴァージニア・ツェアーニ教授の下で研鑽

音響と視覚と言語、この3つを組み合わせることで表現されるのが総合芸術である。現代といえば舞台や映画、映像作品になるが、その原点といえるのが「オペラ」である。人類が電気を使えるようになる以前、音響装置や照明すらない時代から上演されてきた。オーケストラの演奏と人間の声、それだけで観客を魅了する。オペラ歌手は、マイクを通さない生の声だけでオーケストラに対峙し、劇場空間を声で満たし、身体を使って感情を表現し、さまざまな役を演じる。オペラ歌手には、演奏者、コンサートマスター、あるいは指揮者とも一種異なる才能が求められる。声が出ることはもちろんだが、それ以外に人を魅了するようなスター性、日本語でいえば“華”がなければいけない。それだけにオペラ歌手というだけで、天賦の才に恵まれた、そしてそれを鍛え上げてきた、特別な存在といえるのだ。

照れたような笑顔で話し出した。「指揮者になりたかったんですが、高校のときピアノを見てもらった先生に『そんなレベルじゃとても指揮科なんかには入れない。もっと弾けないと無理!』といわれ、ショックでしたね。

でも、音楽が好きだったから、どうしても音大に入りたい。それで声楽科なんです(笑)」

音楽との出会いは、小学生の頃の鼓笛隊にさかのぼる。中学に入るとブラスバンド部へ入部、フルートを担当した。「しっかり練習しましたね。フルートをずっとやっていたんですが、上級生になると持ち回りで指揮をやるんです。自分の番が来て、初めて指揮を経験しました。それからですね。指揮が好きになり、できたら指揮者になりたいなと思っていました」 ピアノを習い始めたのは中学2年になってからというから、音楽へ向かう気持ちの高まりに合わせ行動するタイプなのだろう。指揮者への憧れの気持ちを抱きつつ高校へ進学、ピアノの練習も続けていた。「高校になって、友人から音大に行きたいならいい先生がいるということで紹介してもらったのが女性のピアノの先生でした。わけもわからずそこへ行ってピアノを聴いてもらいました」 そのときの言葉が、冒頭の厳しい指摘だった。無理といわれても音楽の道に進みたい、希望を伝えた。「中学に入ってから始めたピアノで追いつくのは難しいですけど、声楽なら始めるのは大抵高校生になってからで

すから。そのピアノの先生が、いい声楽の先生がいるからと紹介してくれました」 そうして高校2年から声楽を習い始めた。

「受験のための生徒がたくさん来ていて、みんな歌が好きで合唱をやっていたりとか、すごく上手い人ばかりでした。自分といえば、それほど歌に思いがあったわけでもないけど、なかなか上手くなれずにいましたね。こんなところへ習いに来ていていいのか、場違いではないかと、そんな気持ちにさいなまれながらやっていた覚えがあります」 それでも練習を続け、高校3年の秋を迎えた頃には少しは歌えるようになってきたという。「みんなからも上手くなってきたといわれて乗せられて、大学を受験しました」 一浪を経て、愛知県立芸術大学へ進んだ。

「大学へ入ってからは歌のことしか眼中にはなかったですね。でも、いざ大学に入ってみると、周りは歌をなんとか上手くしたいという人ばかりで、自分とは始めた動機が違いすぎましたね(笑)」 1年、2年と過ぎ、3年になってやっと声が出始めたという。「かなり悩みながら一生懸命やっていましたね。いろいろなことを試したりしていました。声



「澤脇達晴受賞記念 主演・プロデュースオペラ公演 BENKEI」
2005年3月20日、21日 主催 / 名古屋演奏家ソサエティー



2013年2月、第35回名古屋芸術大学オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」公演前日、夜のリハーサル。演出には、違う喜びがありますね。トータルで仕上げている感じ。出演者たちが自分の思いをそのまま一生懸命やってくれる、それが嬉しいですね。指揮者の喜びに近いものがありますね



2004年 中国バインブルグ州自治区50周年記念野外コンサート。地元有名アナウンサーの司会で、「日本から著名な歌手がお祝いに歌を歌ってくれます」と紹介されている。5万人の観客数であった



2013年 福山市リーデンローズホールで「マイウェイ」を歌う



2014年 日本特殊陶業市民会館 市民の第九でソリストを務める



35年前、レナータ・テバルディさん(写真右から3番目)。3カ月間、勉強しました。ほとんどの男性に教えていなかったの、日本人の男性で教わったのは僕だけだと思います

- 1993年 インディアナ大学においてゲストリサイタル出演
- 2001年 オーストラリア、シドニー音楽院において名古屋芸術大学との交換教授として声楽指導を行う
- 2004年 名古屋市芸術奨励賞受賞、パチンコ大衆文化賞受賞
- 2005年 受賞記念オペラ公演「BENKEI」を名古屋にてプロデュース・主演

1980年より、名古屋演奏家ソサエティー代表として各種コンサートやオペラ、オペレッタを企画

- 藤原歌劇団団員
- 日本演奏連盟会員
- 名古屋演奏家ソサエティー代表
- 福山シティオペラ会員
- 岡崎音楽家協会会員



安城音楽教会
第14回音楽セミナー
「オペラと私」
2016年5月

オペラにかかわってきた40年と、詩人の恋から「美しい5月に」、フィガロの結婚から「もう飛ばまいぞこの蝶々」、カルメンから「闘牛士の歌」などを披露



教員の交換プログラムで教えに行ったシドニーミュージックスクールの学生たち。みんないい人たちだった。そのとき、55歳以上の人たちが歌うシニアのコンサートがあったんですが、それが素晴らしい。声が飛んで、活力というエネルギーをもらいました。こうでなきゃ、とても勉強になりましたね

楽は、いい曲に巡り会って伸びるといふことがあるんです。自分の声に合う曲に当たると、急に歌えるようになるんです。僕の場合、モーツァルトの「フィガロの結婚」の「伯爵のアリア」をやったんですけど、これがちょうど自分の声にぴったり合って、それから何かいい感じになったように思います。大学卒業後、東京芸大大学院に進み、修了後、本学の音楽科講師として勤め始める。

学生に教える身になったといえども、まだ大学院を出たばかりである。経験も少ない。そんな中で出会ったのが、本学名誉教授の津田孝雄、中島基晴(守雄)両氏であった。「津田先生と一緒にオペラの授業やることになって、大変いろいろなこと、これが本当のオペラだといってもいいようなことを教わりました。中島先生からは発声についてですね。先生たちの影響をかなり受けました。生の公演というか、建て前でない音楽の本質について知ることができたように思います。オペラのやり方というんでしょうか、持っていく方を知りましたね」津田氏が演出する公演に、舞台監督や演者として付き添い、経験を重ねていった。

こうした経験は、演出にも生かされている。近年は、オペラの企画・演出を数多く手がける。「ほかの演出家ができないようなアイデアを、とってやっています。ほかの人がやらないようなことを考え、予算がない中でもないなりにできると、そういう演出で喜ばせたい。そう思っています」

身体一つで演じる声楽だけに、日頃の鍛錬とコンディションの管理には敏感になる。年齢を重ねるごとに、それまでとは違う発声の技術も必要になる。「これまでに国内、海外合わせて10人くらいの先生についてきました。その先生たちのことを思い出してやっています。最近では意識してお腹を使うようにしています。イタリアで教わったときの先生のお腹の使い方を思い出したりしながらね。指導にも役立つんですよ。しっかりと身体を使うことを忘れずにいけば、70歳を超えても続けられるんじゃないかと期待しています」

「舞台に立つと、上手くいっているときは、本当にお客さんの目がぐっと集まってきます。熱い視線、堪らないですよ。一緒に演ずる仲

間のいろいろな人情があって、お客さんもいろいろな人がいるんな人情がある。そういう人たちが一緒に「情」を分かち合うというか、一緒のものにできれば素晴らしいことだなと、最近特にそのように感じています。僕の歌で、一緒に気持ちでいてくれたら嬉しいなあ。そうならいけば、なにものもいらぬ！ そんな感じですよ」年齢とともに身体は変化し、技術も変化する。演出も時代に合わせ変化してゆく。しかし、音楽の醍醐味、音楽の楽しさ素晴らしさは変わらない。変化しながら変わらないものを追い求め続ける。古典的であり現代的な事柄でもあり、芸術のどの領域にも変わりがないことを思い起こす。

「先のことを考えれば、どの分野でもずっと先があり深いものがあります。自分がやろうとすることが発見できたら、先のことよりも、自分がやろうと思った取っ掛かりを大事にして、すぐに結論を出さないでやってもらいたいと思いますね。ひょっとすると結論は40年後、50年後になるかもしれないけど、やっていって欲しいですね」現役であり続ける姿勢は、芸術は生涯をかけるに値することだと教えてくれている。

教員著作の出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)



■菅原美枝子
〔名古屋芸術大学音楽学部演奏学科教授〕
『パービーはピアニスト』
●発行/星湖社



■舟橋三十子
〔名古屋芸術大学音楽学部
音楽文化創造学科教授〕
『クラシックのからくり』
『かたち』で読み解く
『かたち』で読み解く
楽曲の仕組み
●発行/株式会社
ヤマハミュージックメディア

2016年度オープンキャンパス日程

2016年		2017年
7月16日(土) 人間発達学部 10:00~16:00	8月20日(土) 人間発達学部 10:00~16:00	3月 4日(土) 音楽・芸術教養領域・ 人間発達学部 10:00~16:00
7月17日(日) 美術・デザイン・芸術教養領域 10:00~16:00	9月24日(土) 全学部・全領域 10:00~16:00	
	10月30日(日) 全学部・全領域 ミニオープンキャンパス 芸大祭と同時開催	

2016年度 音楽学部演奏会スケジュール(予定)

8月

第18回 ピアノサマーコンサート
日時/2016年8月9日(火)16:00開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

9月

ウィンドオーケストラ 第35回定期演奏会
指揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
竹内 雅一
日時/2016年9月23日(金)18:45開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/500円(全自由席)

10月

あいちトリエンナーレ2016
ショービジネスに乾杯! 2016 ~Wind & Musical~
日時/2016年10月2日(日)18:30開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/一般2,000円・高校生以下1,500円

研究生特別演奏会
日時/2016年10月22日(土)14:00開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

11月

室内楽の夕べ 2016
日時/2016年11月8日(火)18:00開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

音楽学部第39回定期演奏会
日時/2016年11月17日(木)18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席)整理券あり

オーケストラ第34回定期演奏会
指揮/古谷 誠一
日時/2016年11月25日(金)18:45開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/未定

12月

室内楽の夕べ 2016 (大編成の部)
日時/2016年12月6日(火)18:30開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

[Earth Echo]電子オルガンコース第19回定期演奏会
日時/2016年12月8日(木)18:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

2月

第15回 歌曲の夕べ
日時/2017年2月2日(木)18:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

研究生修了演奏会
日時/2017年2月9日(木)18:00開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

大学院音楽研究科特別演奏会
日時/2017年2月16日(木)18:00開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

Kaleidoscope2017
日時/2017年2月18日(土)16:00開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部2号館
入場料/無料(全自由席)

アンサンブル・フィル・モノク・ア・ヴァン
第18回定期演奏会
指揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
小野川 昭博
日時/開催日未定 開演時間未定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

ピアノのしらべ 第21回 春のコンサート
日時/2017年2月22日(水)17:30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

オペラ公演「魔笛」
日時/2017年2月25日(土)開演時間未定
会場/西文化小劇場
入場料/未定

オペラ公演「魔笛」
日時/2017年2月26日(日)開演時間未定
会場/西文化小劇場
入場料/未定

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
お問合せ先/名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
※オペラ公演については(株)クレアール
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。

チケットお取り扱い場所

- 名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
- 名古屋音楽学校
Tel. 052-973-3456
- 愛知芸術文化センターB2Fプレイガイド
Tel. 052-972-0430
- ヤマハミュージック名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
- カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939

※オペラ公演については(株)クレアール
Tel. 0568-26-3355にお問い合わせください。

2016年度展覧会スケジュール(予定)

7/15(金)~7/27(水) 2016年度アート&デザインセンター企画展
「版の方法論:50x50」展

7/29(金)~8/10(水) 素材展(クラフトブロック前期制作展)

9/23(金)~9/28(水) 第29回バスケター展/個真弓カゴによる世界との交流/
川瀬三重子のさざめく形

9/30(金)~10/5(水) 彫刻展(アートクリエイターコース・彫刻クラス)

10/7(金)~10/12(水) アーティストラジオ2016&大学院同時代表現制作展(仮)

10/14(金)~10/19(水) 洋画1コース3・4年展

10/21(金)~11/2(水) 2016年度アート&デザインセンター企画展
絵本作家 三浦太郎 絵本作家の仕事(仮)

11/4(金)~11/9(水) 「幼稚園児たちのゲジジツ 2016」展

11/4(金)~11/9(水) 「Hand Hospeace:医療と美術 2016」

11/11(金)~11/16(水) MCDデパートメント

11/18(金)~11/23(水) 版の神髄;マルメから 2016展

11/25(金)~11/30(水) メディアデザインコース展

12/2(金)~12/7(水) 洋画2コース2年生展覧会

12/9(金)~12/14(水) ブライTON大学との国際交流20周年記念事業展

12/9(金)~12/14(水) 2016年度後期留学生作品展

12/16(金)~12/21(水) こどもの空間 絵本と家具

12/16(金)~12/21(水) 洋画2コース 4年 三人展

12/16(金)~12/21(水) 地場産業の布展(仮)

1/6(金)~1/11(水) ガラス・陶芸コース2・3年生合同展覧会(仮)

1/13(金)~1/18(水) 日本画3年コース展

1/13(金)~1/18(水) EENAC展(洋画)

2/21(火)~2/26(日) 第44回名古屋芸術大学卒業制作展

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先/(0568) 24-0325

Open/12:15~18:00(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館

表紙の写真

「クリエ幼稚園にて」
卒業生、クリエ幼稚園教諭
石川 浩司さん
人間発達学部4年生
伊藤 花実さん
鵜飼 李衣さん
酒井 洸実さん
人間発達学部3年生
谷坂 凌さん
日佐 琴美さん



「名古屋芸大
グループ通信」
ウェブサイト

発行:名古屋芸術大学
企画・編集:全学広報誌編集委員会
デザイン・協力:くまな工房一社
印刷:株クイックス
発行日:2016年7月15日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市問之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移動や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。